

【基本情報】

教科	国語	学年	1年	教科書	国語総合 現代文編（東京書籍）
科目	国語総合（現代文）	単位数 （年間予定コマ数）	2 （78）	副教材	入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500（いっずな書店） 新版四訂 新訂総合国語便覧（第一学習社） 新訂総合国語便覧準拠ノート国語常識のトレーニング（第一学習社） 基礎現代文1＋ 大学入学共通テスト対策版（尚文出版） 国語辞典
科目概要	近代以降の文章を読解する力を養い、深く考えたり自分の考えを持ったりする力を育みます。				
到達目標	現代文分野では、近代以降の様々な文章を題材に、主に以下の三つの学習活動に取り組みます。 (1) 評論文を読む ・近代以降の評論文を題材に、筆者の主張がどのように展開しているか読み取る力を養います。 ・授業では、以下の三つの項目の習得を目指します。 ①理由説明関係を読み取る ②対比対立関係を読み取る ③因果関係を読み取る (2) 小説を読む ・近代以降の小説を題材に、その作品の主題を読み取る力を養います。 ・授業では、以下の三つの項目の習得を目指します。 ①時間や場面の設定とその変化を読み取る ②登場人物および人間関係を読み取る ③誰の視点で描かれているかを読み取る (3) 小論文を書く ・世の中の様々な出来事に対して自分の考えを持ち、それが読み手に伝わるような文章を書く力を養います。 ・授業では、100字程度の記述問題に関するトレーニングを重視します。 (4) その他 ・単語集や問題演習をととして、読解力の基盤となる広い知識と語彙の習得を目指します。 ・授業中のグループ活動などをととして、話す・聞く能力の向上を目指します。				
授業の進め方	教科書を基本としますが、広い知識の習得を目指して、適宜独自の教材を取り入れることがあります。 また、主に漢字に関する小テストを随時実施します。				
留意事項	教科書、副教材(国語辞典を含む)、プリント等を忘れずに準備してください。 授業中のグループ活動等に、主体的に取り組んでください。				
家庭学習	授業の予習を習慣にしてください(あらかじめ本文を読むのも立派な予習です)。 知らない単語は辞書を引き、ノートに記録して語彙を蓄積しましょう。使いこなせる言葉が一つ増えるごとに国語の力が増します。 漢字の読み書きは確実に習得しましょう。絶対に先延ばしにしないでください。				
備考	授業では「読む質」を重視しますが、国語力向上のためには同時に「読む量」が大切です。各自で取り組んでください。 授業の単元の内容に関連する本や、単元の著者の別の作品を読むなど読書活動を充実させ、知識を増やしていきましょう。 図書室を積極的に活用してください。図書室には多数の新書、ほぼ全ての岩波ブックレットがあります。 読解力のベースにあるのは知識量です。新聞に載っている内容を理解出来るようになるのが、一つの目安になります。 高校の現代文は、勉強しなくても出来る科目ではありません。日々の学習を大切にしてください。				

【評価の方法】

観 点	ポ イ ン ト	割 合	評 価 項 目
A. 関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	10%	・授業ワークシート、協働学習、小テスト、定期試験問題等、随時観点別の評価項目を設定し、評価します。 ※考査は現代文と古典を別々に実施しますが、評価は国語総合として行います（現代文50%、古典50%）。したがって、現代文か古典のどちらかだけでは好成績を上げることはできません。両方に力をいれて取り組んでください。
B. 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ深めている。	10%	
C. 書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	15%	
D. 読む能力	文章を正確に読みとったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	25%	
E. 知識・理解	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	40%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学 習 内 容	観 点 別 評 価					到 達 目 標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	1		○					・国語総合のねらい、学習方法について理解する。
評論 1	5	技術が道徳を代行する時	○			○		・技術の発達と倫理観・道徳観の関係についての筆者の主張をとらえ、まとめる。
小説 1	6	羅生門				○	○	・文章に書かれている人物の心情を表現に即して読み、その人物像をまとめることができる。
詩歌（詩）	2	小景異情 自分の感受性くらい		○		○		・詩の形式について理解し、描かれている心情について理解する。
前期中間考査	1							
評論 1	5	水の東西	○			○		・文章の具体例と抽象的表現を的確に読みとる。 ・論理の展開をつかみ、日本文化の特徴を理解する。
評論 2	5	〈顔〉という現象			○		○	・段落構成やそれぞれの段落の関係など、文章の筋道を的確にとらえることが出来る。 ・文章の組み立てについて理解する。
	5	時間と自由の関係について			○	○		・時間と自由の関係を読みとり、自由とはどういうことかについて理解する。
前期期末考査	1							
随想	5	少女たちの「ひろしま」				○		・当時の人々の生活に思いをめぐらし、戦争が引き起こしたものについて理解を深める。
評論 2	4	言葉は「ものの名前」ではない				○	○	・言葉と「もの」の関係を読み取る。
小説 2	5	城の崎にて		○		○		・文章に描かれている人物の心情を表現に即して読むことで「私」が至った認識をもとに「生命」について自分の考えを深めることが出来る。
詩歌（短歌・俳句）	2	短歌・俳句		○				・短歌・俳句の特色に気づき、日本の伝統的な言語文化に対する関心を広げることが出来る。
後期中間考査	1							
評論 3	6	広告の形而上学				○		・「形而上学」という語を理解するとともに、広告に用いられている比喻を理解する。
小説 3	6	神様		○		○		・架空の物語を味わいながら、それぞれの言葉にこめられた意味を読み取る。
評論 4	6	生物の多様性とは何か				○	○	・生物の多様性について読み取り、その大切さについて考える。
	6	暇と退屈の倫理学			○		○	・現状を分析している個所と結論部分とを的確にとらえ、筆者の主張を理解する。
後期期末考査	1							
言語学習	5	言語活動編 3－7・8						・グラフや図表・絵から情報を読み取る。

【基本情報】

教科	国語	学年	1年	教科書	国語総合 古典編（東京書籍）
科目	国語総合（古典）	単位数 （年間予定コマ数）	2 （117）	副教材	新版五訂 完全マスター古典文法（第一学習社） 新版五訂 完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め（第一学習社） わかる・読める・解ける Key&Point古文単語330（いいずな書店） 基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版（桐原書店） 基礎から解釈へ 漢文必携 チェックノート・基本編（桐原書店） 基礎古典1＋ 大学入試共通テスト対策版（尚文出版） 新版四訂 新訂総合国語便覧（第一学習社） 新訂総合国語便覧準拠ノート国語常識のトレーニング（第一学習社） 古語辞典（古文）・漢和辞典（漢文）
科目概要	古典読解のための、基本的な語彙力・文法力を身につける学習を行います。				
到達目標	古文では以下の項目の習得をとおして、文章理解のための基本的な語彙力・文法力を身につけることを目指します。 ・文 法 … 用言および助詞・助動詞の意味用法 ・古文単語 … 「古文単語330」に掲載されている単語（330語程度）の意味用法 ・古文常識 … 暦法・官位・旧国名など古文読解のために必要な知識 ・文学史 … 上代～近世までの代表的な文学作品と作者名 漢文では以下の項目の習得をとおして、文章理解のための基本的な語彙力・文法力を身につけることを目指します。 ・句 法 … 「漢文必携」付属の「句形マスターシート」に掲載されている句形（60個） ・漢字の用法 … 「漢文必携」P89～P154「語彙編」に掲載されている漢字（100字程度）の意味用法 ・文学史 … 中国の歴代王朝名、諸子百家とその概要、漢詩に関する基本的な知識と代表的な詩人				
授業の進め方	教科書を基本としますが、効率よく学習を進めていくためにプリントも使用します。 また、文法事項と語彙習得のため、古文・漢文ともに小テストを随時実施します。				
留意事項	教科書、副教材(古語辞典・漢和辞典を含む)、プリント等を忘れずに準備してください。 古文・漢文ともに予習（ノート作り）をして授業に臨んでください。				
家庭学習	古文・漢文は予習での「ノート作り」が重要です。 （予習）古文では、① 本文を3行以上空けてノートに書き写す ② 単語の品詞と意味を古語辞典で確認 ③ 文法事項を「完全マスター古典文法」で調べておく ④ 自分の力で現代語訳する 漢文では、① 本文を3行以上空けてノートに書き写す ② 書き下し文を書く ③ 教科書の脚注を参考にしながら、自分の力で現代語訳する （復習）古文・漢文ともに、授業内容の復習をしてください。特に文法事項は、繰り返し学習することで定着します。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポ イ ン ト	割 合	評 価 項 目
A. 関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。	10%	・授業ワークシート、協働学習、小テスト、定期試験問題等、随時観点別の評価項目を設定し、評価します。 ※考査は現代文と古典を別々に実施しますが、評価は国語総合として行います（現代文50%、古典50%）。したがって、現代文か古典のどちらかだけでは好成績を上げることはできません。両方に力をいれて取り組んでください。
B. 話す・聞く能力			
C. 書く能力			
D. 読む能力	古典に表れた思想や感情を的確に読み取る事でものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。	20%	
E. 知識・理解	古典の理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけている。	70%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学 習 内 容	観 点 別 評 価					到 達 目 標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	1		○					・国語総合のねらい、学習方法について理解する。
古文 入門	7	今昔物語集 検非違使忠明 宇治拾遺物語 絵仏師良秀	○				○	・古文に親しむ心を育む。 ・語句の意味・文語のきまりを理解する。 【歴史的仮名遣い】 【品詞の種類】 【活用と活用形】 【用言の活用】 【品詞の接続】
漢文 入門	7	訓読の基本 訓読・格言 唐詩紀事 推敲	○				○	・漢文に親しむ心を育む。 ・訓読のきまりと、漢文の文の構造を理解する。 【訓読の基礎】 【書き下し文のきまり】 【再読文字】 【助字】 【置き字】
前期中間考査	1							
古文 随筆 1	8	徒然草 丹波に出雲といふ所あり 九月二十日のころ				○	○	・漢文調の表現や修辞法など筆者の工夫を捉えて読む。 ・言動や情景描写から登場人物の心情の変化を読みとる。 ・文語のきまりを理解する。 【接続助詞「ば」】 【係り結び】 【助動詞】
漢文 寓話	6	列子 朝三暮四 礼記 苛政猛於虎也	○			○		・故事成語の成立と、その意味を深く理解しようとする。 ・表現の技法や文体など筆者の工夫をとらえて読む。
古文 物語	10	竹取物語 天の羽衣 伊勢物語 芥川、東下り				○	○	・登場人物の心情の推移を的確に捉える。 ・文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、歴史的背景も含めて読みを深める。 【助動詞の識別】
漢文 唐代の詩文	8	五言絶句 江雪、静夜思 七言絶句 送元二…、黄鹤楼… 五言律詩 春望 七言律詩 香炉峰…	○				○	・情景、心情を正確に読み取り、修辞の表現効果を理解する。 【漢詩の形式】
前期期末考査	1							
古文 日記	5	土佐日記 馬のはなむけ、帰京				○	○	・登場人物の心情の推移を的確に捉える。 【助動詞の識別】
古文 随筆 2	6	枕草子 春はあけぼの、五月…						
漢文 史話	9	鶏口牛後 臥薪嘗胆	○				○	・日本語における故事成語の成り立ちを知る。
古文 軍記物語	9	平家物語 木曾の最期				○	○	・音読することで平曲のリズムをつかむ。 ・歴史的背景を読み取ることで人物の心情理解を深める。
後期中間考査	1							
古文 和歌	10	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集				○	○	・各和歌集の和歌の特徴を理解する。 ・和歌の修辞や、語句の使い方について理解する。 ・和歌という表現方法の効果や、その価値について理解する。 【和歌の修辞】
漢文 思想	8	論語 孟子	○			○		・孔子、孟子が理想とした考えを表現に即して読み取る。 ・訓読のきまりを理解している。
古文 俳諧・紀行	6	奥の細道 漂泊の思ひ、平泉				○	○	・俳諧の表現技法を踏まえて読む。 ・語句の意味、語句の用法について理解する。
後期中間考査	1							
古典文法演習	13					○	○	・助動詞および漢文句形についての理解を深める。

【基本情報】

教科	地理・歴史	学年	1年	教科書	高等学校・世界史A（第一学習社）
科目	世界史A	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	
科目概要	「世界史A」は、世界の歴史の大きな枠組みと展開を、近・現代史を中心に理解しようという科目です。近現代の世界の形成過程を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、学習します。（この科目は1年前期だけで修了する科目です。）				
到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史の学習を通して、歴史的思考力を培う。また、地理歴史科の必修科目として、「世界地図などを読み取る力」や「日本の歴史と世界の歴史のつながり」など、今後の地理歴史科目学習の基礎となる力を、世界の歴史の学習を通して身につける。				
授業の進め方	・近現代史の基本的事項・事柄を中心に扱っていきます。（古代～近代の歴史は大まかに学習します） （より詳しい事項・事柄は、今年度の学習を前提に、来年度以降の選択科目「世界史B」の中で触れていきます。） ・授業は効率的に進めていくために、ワークシートを中心に進めていきます。（板書を写すためのノートは必要ありません） ・A・L型授業では班ごとに活動し、与えられた課題を自分たちで解決してもらいます。 ・毎回、教科書・ワークシートは忘れないようにして下さい。 ・地域ごとの“タテの流れ”，時代ごとの“ヨコのつながり”や“地理的な感覚”を意識して授業を行います。				
留意事項	① 教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加すること。 ② ファイルにワークシートを保存し、ノート代わりに利用すること。ファイルは各自で用意すること ワークシートは答えの穴埋めだけに終始せず、全体的に捉えて利用すること ③ 板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けをします。 ④ 忘れ物は絶対にしないこと。もし、忘れ物がある場合には、事前に申し出ること。 ⑤ 提出物の期限はしっかり守ること。期限に遅れた場合、減点もしくは0点扱いになる場合があります。 ⑥ 定期考査において、漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して学習するようにして下さい。				
家庭学習	効率よく授業を進めるために、課題が出される場合があります。課題をやってこないと学習活動に支障がきたす場合がありますので、課題がある場合は、必ず行ってきてください。				
備考	◆「世界史」を大学受験科目とする場合は、2・3年次に選択科目「世界史B」を履修して下さい。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	10%	主にワークシートの作成・提出状況で評価します。
B. 思考・判断・表現	近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	5%	「思考・判断・表現」に関わる課題を出します。
C. 資料活用能力	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	5%	地図やグラフなどを用いた「資料活用能力」に関わる課題を出します。
D. 知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	80%	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
オリエンテーション	2	授業の進め方 など					
古代～近代の幕開けまで概要と日本の関わり	8	近代史の学習に必要な最低限度の通史について触れる		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
第5章 19世紀の世界の一体化と日本 1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 4 ウィーン体制とその崩壊 5 ヨーロッパ国民国家の発展 6 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動 7 東アジアの変容と日本の近代化	8	産業革命, フランス革命, アメリカ諸国の独立, 自由主義と国民主義の進展, 拡大する貿易活動, ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成, ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況, 植民地化や従属化の過程		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
前期中間考査（考査まで 計19コマ）	1		○			○	
第6章 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦	6	第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊	4	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立, アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ, 核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
第8章 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 旧ソ連・東ヨーロッパ諸国の動向 3 アメリカの戦争と世界同時不況 4 西アジアの混迷 5 南アジア・東南アジアの動き 6 巨大化する中国と東アジアの変動 7 ラテンアメリカ・アフリカ・オセアニアの情勢	4	1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
終章 持続可能な世界をめざして 1 巨大技術と人間 2 人が人らしく生きるために 3 なお続く紛争	5	主題学習		○	○		世界の歴史に関わる基本的事項を理解し、設定されたテーマや課題の解決に向けて、協力しながら取り組むことができる。
前期期末考査（考査まで 計20コマ）	1		○			○	

【基本情報】

教科	数 学	学 年	1 年	教科書	数学 I Advanced （東京書籍）
科 目	数 学 I	単位数 (年間予定コマ数)	3 (117)	副教材	Hi-PRIME 数学 I + A （東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学 I + A （東京書籍）
科 目 概 要	・ 中学数学を継承し，高校数学において他の科目を履修するための最も基礎となる科目である。大学入試はもちろん，その他の進学においても必要になることがほとんどである。 ①数と式 …文字を含んだ式の加減法・乗法・因数分解などを学び，基礎計算力をつける。 ②集合と論証 …集合の基本を学び，論理的な思考力を身につける。 ③2 次関数 …関数の基本を学び，他の関数に応用する力をつける。 ④図形と計量 …図形の相似の考え方を発展させて三角形に関する様々な値を求める。 ⑤データの分析…様々なデータを分析する力をつける。				
到 達 目 標	・ 数と式，集合と論証，2 次関数，図形と計量，データの分析について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習得を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識し活用できることを目標とする。 ・ 重要な定理や公式を理解するとともに，基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。 ・ 教科書の問，問題，練習問題を解けるようにする。				
授業の進め方	・ 基本的には教科書に沿って進め，状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・ 単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。 ・ 教科書の「参考」「発展」も学習する。 ・ 週初めには先週の授業内容の確認のため，「週初めテスト」を実施する。 ・ 単元テスト・節末テストを定期的実施する。				
留 意 事 項	・ 教科書・B 5 版ノート（教科書用と問題集用の2 冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。 ・ 指示された問題を早く解き終わった場合には，傍用問題集に取り組む。 ・ 参考書は，家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。				
家 庭 学 習	・ 復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるので，その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し，傍用問題集の該当問題を解く。 ・ 週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み，参考書を利用し疑問点が残らないようにする。 ・ 不明な点が残ってしまった場合には，量が多くなならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・ 大学等進学を目指し家庭学習をする場合，各章末の練習問題が理解できるかどうか1 つの目安になる。教科書・問題集の基礎・基本を確実に身に付け，その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるので，じっくり取り組む。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・ 数学的な活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析における考え方に関心をもつと共に，数学的な見方や考え方の良さを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	1 0 %	1 定期考査・各テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・ 数学的な活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析における数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ，論理的に考察すると共に，過程を振り返り多面的・発展的に考察し，表現できる。	3 0 %	
C．数学的な技能	・ 数学的活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析における事象を数学的に考察し，処理する仕方や推論する技能を身に付け,的確に問題を解決できる。	3 0 %	
D．知識・理解	・ 数学的活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	3 0 %	

【年間計画】

単 元		配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
				A	B	C	D	
第1章	数と式	29	1節 式の計算 整式 整式の加法・減法・乗法 因数分解 問題			○	○	・整式についてのいろいろな用語や乗法公式・因数分解の意味を理解している。 ・式を目的に応じて変形，置き換えたりして，式の展開や因数分解ができる。 ・根号を含み式の計算や有理化ができる。 ・絶対値の記号を含む式の計算ができる。 ・数量の関係を不等式で表すことに関心を持ち，1次不等式を活用しようとする。 ・1次不等式の解の意味を理解し，不等式の性質を利用して不等式の解を求めることができる。
2節	実数		実数 根号を含む式の計算 問題	○		○	○	
3節	1次不等式		不等式とその性質 1次不等式の解法 不等式の応用 問題	○	○		○	
第2章	集合と論証	7	1節 集合 2節 命題と論証 命題と条件 論証 問題	○	○			・命題と条件，必要条件・十分条件・必要十分条件，命題の否定と逆・裏・対偶の理解，対偶を利用した証明法や背理法の証明法を理解する。
第3章	2次関数	34	1節 関数とグラフ 関数 2次関数とそのグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 問題	○		○	○	・2次関数とそのグラフや値の変化，2次関数と2次方程式・2次不等式に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ・関数の値の変化を調べ，関数の最大・最小や2次方程式・2次不等式をグラフを用いて理解し，的確に処理することができる。 ・2次関数と2次方程式，2次不等式の関係を表・グラフなどを利用し論理的・多面的に考察することができる。 ・2次関数の性質とそのグラフの書き方を理解している。 ・2次関数と2次方程式・2次不等式について理解している。
2節	2次方程式・2次不等式		2次方程式の解法 2次方程式の実数解の個数 2次関数のグラフとx軸の共有点 2次不等式 2次不等式の応用 問題	○		○	○	
第4章	図形と計量	29	1節 鋭角の三角比 直角三角形と三角比 三角比の相互関係 問題	○	○		○	・鋭角・鈍角の三角比や図形との関係に関心を持ち，角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，具体的な事象の考察に主体的かつ意欲的に活用する。 ・平面図形や空間図形の性質に関心をもち，正弦定理・余弦定理などを積極的に活用しようとする。 ・角の大きさなどを用いた計量を行うために，三角比の相互関係や，正弦定理・余弦定理などの三角形の辺と角の基本的な関係を理解し，それを利用して具体的な事象の考察に活用できる。 ・三角比の相互関係を的確に表現できる。 ・いろいろな事象に正弦・余弦定理を活用できる。 ・空間図形の性質を理解し，的確に三角比を用い処理することができる。 ・正弦定理・余弦定理はもちろん，相似などの図形的な性質を平面図形や空間図形に利用することができる。
2節	三角比の拡張		三角比と座標 三角比の性質 問題	○	○		○	
3節	三角形への応用		正弦定理 余弦定理 三角形の面積 空間図形の計量 問題	○		○	○	
第5章	データの分析	18	1節 データの整理と分析 データの整理 代表値 箱ひげ図 箱ひげ図とデータの散らばり 分散と標準偏差 問題	○	○		○	・データを度数分布表やヒストグラムで表したり，相対度数を求めることができる。データの代表値（平均値，中央値，最頻値）について理解する。 ・データの特徴を捉えるのに，四分位数・箱ひげ図を理解し範囲・四分位範囲，四分位偏差を活用できる。 またデータの散らばりの表し方として，偏差・分散・標準偏差を理解し，求めることができる。 ・相関関係を数値で表す方法として相関係数を理解し，2つの変量の相関をとらえることができる。
2節	データの相関		相関関係 相関係数 問題	○		○	○	

【基本情報】

教科	数 学	学 年	1 年	教科書	数学A Advanced （東京書籍）
科 目	数 学 A	単位数 (年間予定コマ数)	2 (117)	副教材	Hi-PRIME 数学 I + A （東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学 I + A （東京書籍）
科 目 概 要	・ 中学数学を継承し，高校数学において他の科目を履修するための最も基礎となる科目である。大学入試はもちろん，その他の進学においても必要になることがほとんどである。 ①場合の数と確率…場合の数や確率に関する様々な値を求める。 ②整数の性質…約数・倍数の考え方を発展させて，整数の性質をいろいろな場面で活用する。 ③図形の性質…三角形や円などの平面図形や空間上の直線や平面の位置関係やなす角について学ぶ。				
到 達 目 標	・ 場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習得を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学の良さを認識し活用できることを目標とする。 ・ 重要な定理や公式を理解するとともに，基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。 ・ 教科書の問，問題，練習問題を解けるようにする。				
授 業 の 進 め 方	・ 基本的には教科書に沿って進め，状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・ 単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。 ・ 教科書の「参考」「発展」も学習する。 ・ 週初めには先週の授業内容の確認のため，「週初めテスト」を実施する。 ・ 単元テスト・節末テストを定期的実施する。				
留 意 事 項	・ 教科書・B5版ノート（教科書用と問題集用の2冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。 ・ 指示された問題を早く解き終わった場合には，傍用問題集に取り組む。 ・ 参考書は，家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。				
家 庭 学 習	・ 復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるので，その日の授業で取り組んだ例・問を自力で解き直し，傍用問題集の該当問題を解く。 ・ 週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するために週末課題に取り組み，参考書を利用し疑問点が残らないようにする。 ・ 不明な点が残ってしまった場合には，量が多くなならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・ 大学等進学を目指し家庭学習をする場合，各章末の練習問題が理解できるかどうか1つの目安になる。教科書・問題集の基礎・基本を確実に身に付け，その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジする。考える力が試されるので，じっくり取り組む。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・ 数学的な活動を通して，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における考え方に関心をもつと共に，数学的な見方や考え方の良さを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	10%	1 定期考査・各テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・ 数学的な活動を通して，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ，論理的に考察すると共に，過程を振り返り多面的・発展的に考察し，表現できる。	30%	
C．数学的な技能	・ 数学的活動を通して，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における事象を数学的に考察し，処理する仕方や推論する技能を身に付け，的確に問題を解決できる。	30%	
D．知識・理解	・ 数学的活動を通して，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第3章 図形の性質 1 節 三角形の性質	4 2	三角形と比 三角形の重心・外心・垂心・内心 三角形の比の定理 問題	○		○		・三角形と比の定理，三角形の内角の2等分線と比，三角形の外角の2等分線の定理を活用できる。 ・三角形の重心・外心・垂心・内心について理解する。 ・チェバの定理，およびメネラウスの定理を理解し，活用できる。
2 節 円の性質		円周角の定理 円に内接する四角形 接線と弦のつくる角 方べきの定理 2つの円 問題		○		○	
3 節 作図		基本的な作図 長さの作図 問題		○		○	
4 節 空間図形		直線と平面 多面体 問題		○	○	○	
第1章 場合の数と確率 1 節 場合の数	4 5	集合の要素の個数 樹形図と場合の数 順列 組合せ 問題	○	○			・和集合の要素の個数が計算できる。 ・和の法則，積の法則を理解し，樹形図の利用も含め場合の数を求められる。 ・順列・組合せを理解し，その総数を計算できる。 ・確率の意味と基本性質を理解し，積事象・和事象・排反事象確率の加法定理，余事象とその確率を求めることができる。 ・独立試行の確率，反復試行の確率を求めることができる。 ・確率の乗法定理を理解し，条件つき確率を求めることができる。
2 節 確率とその基本的性質		事象と確率 確率の基本性質 問題	○	○		○	
3 節 いろいろな確率		独立な試行の確率 反復試行の確率 条件つき確率 問題			○	○	
第2章 整数の性質 1 節 約数と倍数		約数と倍数 最大公約数と最小公倍数 問題		○	○		
2 節 ユークリッドの互除法と不定方程式	3 0	除法の性質と整数の分類 ユークリッドの互除法 2元1次不定方程式 問題	○		○		・整数に関する約数や倍数の基本的な用語の意味を理解し，倍数を見分けたり素因数分解によって約数を求めることができる。 ・素因数分解を用いて最大公約数や最小公倍数を求めることができるとともに，最大公約数や最小公倍数の関係を理解する。 ・整数の除法の性質を理解するとともに，割り算の余りによる整数の分類を利用し，整数に性質を考察する。 ・整数の除法に基づきユークリッドの互除法の仕組みを理解し，それを用いて2つの整数の最大公約数を求めることができる。 ・2元1次方程式の解の意味を理解し，未知数の係数が互いに素となる簡単な場合についてユークリッドの互除法などを利用して解を求めることができる。 ・身近に使用している10進法をもとに数の仕組みを理解し，2進法や3進法などを用いて数を自由に表記できる。 - また，2進法における加法・減法・乗法などの計算を10進法と同じように扱うことができる。 ・分数が有限小数または循環小数で表される仕組みを理解し，整数の様々な事象の考察に活用できる。
3 節 整数の性質の活用		記数法 小数と分数 問題	○		○		
				○	○		
			○		○		

【基本情報】

教科	数 学	学 年	1 年	教科書	数学 I Advanced （東京書籍） 数学A Advanced （東京書籍）
科 目	S S 数学 I	単位数 (年間予定コマ数)	5 (234)	副教材	Hi-PRIME 数学 I + A （東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学 I + A （東京書籍）
科 目 概 要	・ 中学数学を継承し，高校数学において他の科目を履修するための最も基礎となる科目である。大学入試はもちろん，その他の進学においても必要になることがほとんどである。 ①数と式 …文字を含んだ式の加減法・乗法・因数分解などを学び，基礎計算力をつける。 ②集合と論証 …集合の基本を学び，論理的な思考力を身につける。 ③2 次関数 …関数の基本を学び，他の関数に応用する力をつける。 ④図形と計量 …図形の相似の考え方を発展させて三角形に関する様々な値を求める。 ⑤データの分析…様々なデータを分析する力をつける。 ⑥統計的な推測…理科実験のデータを処理する能力を身につける。 ⑦場合の数と確率…場合の数や確率に関する様々な値を求める。 ⑧図形の性質…三角形や円などの平面図形や空間上の直線や平面の位置関係やなす角について学ぶ。 ⑨整数の性質…約数・倍数の考え方を発展させて，整数の性質をいろいろな場面で活用する。				
到 達 目 標	・ 数と式，集合と論証，2 次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，整数の性質，図形の性質について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習得を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識し活用できることを目標とする。 ・ 重要な定理や公式を理解するとともに，基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できることを目標とする。 ・ 教科書の問，問題，練習問題を解けるようにする。				
授業の進め方	・ 基本的には教科書に沿って進め，状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・ 単元が終了するときには教科書の章末の練習問題にも取り組む。 ・ 教科書の「参考」「発展」も学習する。 ・ 週初めには先週の授業内容の確認のため，「週初めテスト」を実施する。 ・ 単元テスト・節末テストを定期的の実施する。				
留 意 事 項	・ 教科書・B 5 版ノート（教科書用と問題集用の2 冊を用意する）・傍用問題集を忘れずに準備する。 ・ 指示された問題を早く解き終わった場合には，傍用問題集に取り組む。 ・ 参考書は，家庭学習および長期休暇中の講習・課題で使用する。				
家 庭 学 習	・ 復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるので，その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し，傍用問題集の該当問題を解く。 ・ 週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習するため週末課題に取り組み，参考書を利用し疑問点が残らないようにする。 ・ 不明な点が残ってしまった場合には，量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・ 大学等進学を目指し家庭学習をする場合，各章末の練習問題が理解できるかどうかが1 つの目安になる。教科書・問題集の基礎・基本を確実に身に付け，その考え方を十分に活用し練習問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるので，じっくり取り組む。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・ 数学的な活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における考え方に関心をもつと共に，数学的な見方や考え方の良さを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	1 0 %	1 定期考査・各テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲）それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・ 数学的な活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学的にとらえ，論理的に考察すると共に，過程を振り返り多面的・発展的に考察し，表現できる。	3 0 %	
C．数学的な技能	・ 数学的活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における事象を数学的に考察し，処理する仕方や推論する技能を身に付け，的確に問題を解決できる。	3 0 %	
D．知識・理解	・ 数学的活動を通して，数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，整数の性質，および図形の性質における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	3 0 %	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
① 数と式 1 節 式の計算 2 節 実数 3 節 1 次不等式	3 8	整式 整式の加法・減法・乗法 因数分解 問題 実数 根号を含む式の計算 問題 不等式とその性質 1 次不等式の解法 不等式の応用 問題	 ○ 				

⑥ 図形の性質 1 節 三角形の性質	2 4	三角形と比	○		○		・三角形と比の定理，三角形の内角の2等分線と比，三角形の外角の2等分線の定理を活用できる。 ・三角形の重心・外心・垂心・内心について理解する。 ・チェバ・メネラウスの定理を理解し、活用できる。 ・円周角の定理を理解し、活用できる。 ・円に内接する四角形の定理と四角形の内接条件の定理を理解し、活用できる。 ・円の接線と弦のつくる角を理解し、活用できる。 ・方べきの定理を理解し、活用できる。 ・2つの円の位置関係を理解し、図形に対する見方を豊かにする。 ・中学校において学習した基本的な作図や，平行四辺形の成立条件や三角形と比の性質をもとに，平行な直線や線分の内分点・外分点などを作図できる。 ・長さ1の大きさの線分が与えられたとき，2数の積や商および平方根などを図形の性質を利用して作図で表現できる。 ・中学校で学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ，三垂線の定理などを扱い，図形の性質を論理的に考察することができる。 ・オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。
		三角形の重心・外心・垂心・内心		○	○		
		三角形の比の定理		○	○		
		問題	○		○		
2 節 円の性質		円周角の定理			○	○	・円に内接する四角形の定理と四角形の内接条件の定理を理解し、活用できる。 ・円の接線と弦のつくる角を理解し、活用できる。 ・方べきの定理を理解し、活用できる。 ・2つの円の位置関係を理解し、図形に対する見方を豊かにする。 ・中学校において学習した基本的な作図や，平行四辺形の成立条件や三角形と比の性質をもとに，平行な直線や線分の内分点・外分点などを作図できる。 ・長さ1の大きさの線分が与えられたとき，2数の積や商および平方根などを図形の性質を利用して作図で表現できる。 ・中学校で学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ，三垂線の定理などを扱い，図形の性質を論理的に考察することができる。 ・オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。
		円に内接する四角形			○	○	
		接線と弦のつくる角			○	○	
		方べきの定理	○		○		
3 節 作図		2つの円	○	○			・2つの円の位置関係を理解し、図形に対する見方を豊かにする。 ・中学校において学習した基本的な作図や，平行四辺形の成立条件や三角形と比の性質をもとに，平行な直線や線分の内分点・外分点などを作図できる。 ・長さ1の大きさの線分が与えられたとき，2数の積や商および平方根などを図形の性質を利用して作図で表現できる。 ・中学校で学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ，三垂線の定理などを扱い，図形の性質を論理的に考察することができる。 ・オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。
		問題	○		○		
		基本的な作図			○	○	
		長さの作図	○		○		
4 節 空間図形		問題	○		○		・長さ1の大きさの線分が与えられたとき，2数の積や商および平方根などを図形の性質を利用して作図で表現できる。 ・中学校で学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ，三垂線の定理などを扱い，図形の性質を論理的に考察することができる。 ・オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。
		直線と平面			○	○	
		多面体			○	○	
		問題	○			○	
⑦ 場合の数と確率 1 節 場合の数	3 2	集合の要素の個数	○	○			・和集合の要素の個数が計算できる。 ・和の法則，積の法則を理解し，樹形図の利用も含め場合の数を求められる。 ・順列・組合せを理解し，その総数を計算できる。 ・確率の意味と基本性質を理解し，積事象・和事象・排反事象確率の加法定理，余事象とその確率を求めることができる。 ・独立試行の確率，反復試行の確率を求めることができる。 ・確率の乗法定理を理解し，条件つき確率を求めることができる。
		樹形図と場合の数	○	○			
		順列			○	○	
		組合せ			○	○	
2 節 確率と その基本的性質		問題	○		○		・確率の意味と基本性質を理解し，積事象・和事象・排反事象確率の加法定理，余事象とその確率を求めることができる。 ・独立試行の確率，反復試行の確率を求めることができる。 ・確率の乗法定理を理解し，条件つき確率を求めることができる。
		事象と確率			○	○	
		確率の基本性質	○	○			
		問題	○		○		
3 節 いろいろな確率		独立な試行の確率			○	○	・独立試行の確率，反復試行の確率を求めることができる。 ・確率の乗法定理を理解し，条件つき確率を求めることができる。
		反復試行の確率			○	○	
		条件つき確率			○	○	
		問題	○		○		
⑧ 整数の性質 1 節 約数と倍数	2 4	約数と倍数			○	○	・整数に関する約数や倍数の基本的な用語の意味を理解し，倍数を見分けたり素因数分解によって約数を求めることができる。 ・素因数分解を用いて，最大公約数や最小公倍数を求めることができるとともに，最大公約数や最小公倍数の関係を理解する。 ・整数の除法の性質を理解するとともに，割り算の余りによる整数の分類を利用し，整数に性質を考察する。 ・整数の除法に基づきユークリッドの互除法の仕組みを理解し，それを用いて2つの整数の最大公約数を求めることができる。 ・2元1次方程式の解の意味を理解し，未知数の係数が互いに素となる簡単な場合についてユークリッドの互除法などを利用して解を求めることができる。 ・身近に使用している10進法をもとに数の仕組みを理解し，2進法や3進法などを用いて数を自由に表記できる。また，2進法における加法・減法・乗法などの計算を10進法と同じように扱うことができる。 ・分数が有限小数または循環小数で表される仕組みを理解し，整数の様々な事象の考察に活用できる。
		最大公約数と最小公倍数			○	○	
		問題	○		○		
		除法の性質と整数の分類	○		○		
2 節 ユークリッドの 互除法と不定方程式		ユークリッドの互除法	○		○		・整数の除法に基づきユークリッドの互除法の仕組みを理解し，それを用いて2つの整数の最大公約数を求めることができる。 ・2元1次方程式の解の意味を理解し，未知数の係数が互いに素となる簡単な場合についてユークリッドの互除法などを利用して解を求めることができる。 ・身近に使用している10進法をもとに数の仕組みを理解し，2進法や3進法などを用いて数を自由に表記できる。また，2進法における加法・減法・乗法などの計算を10進法と同じように扱うことができる。 ・分数が有限小数または循環小数で表される仕組みを理解し，整数の様々な事象の考察に活用できる。
		2元1次不定方程式	○		○	○	
		問題	○		○		
		記数法	○		○		
3 節 整数の性質の 活用		小数と分数			○	○	・身近に使用している10進法をもとに数の仕組みを理解し，2進法や3進法などを用いて数を自由に表記できる。また，2進法における加法・減法・乗法などの計算を10進法と同じように扱うことができる。 ・分数が有限小数または循環小数で表される仕組みを理解し，整数の様々な事象の考察に活用できる。
		問題	○		○		
⑨ 統計的な推測	7	有意水準を用いた仮説の検定	○	○			・理科実験で得られたデータをもとに、統計的な推測の手法を理解する。

4. 科目別シラバス

【基本情報】

教科	理科	学 年	1 年	教科書	化学基礎 改定版（啓林館318）
科 目	化学基礎	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	必修アクセス化学基礎（浜島書店）
科 目 概 要	・物質について基本的な性質を学習する。化学反応における量的関係や酸・塩基、酸化還元反応など日常生活に関連深い事象を考察し、理科全般に対する基礎知識を身につける。				
到 達 目 標	・化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 ・原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 ・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や 社会と関連付けて考察できる。 ・物質の状態変化、平衡および溶液の性質について理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・探究活動を行い学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。 ・模試においては、偏差値55を目標に学習を進めていく。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかる。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていく。				
留 意 事 項	・毎時間、 教科書・ノート を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、基本的に理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて行うので、必ず学習してくること。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解くこと。				
備 考	・学期末・学年末の評価については、上記の4観点を100点法で換算し、5段階でつける。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	20%	授業・観察・実験での取り組み状況や発言内容、課題提出状況で判断する。
B. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	20%	授業での発言内容や、定期考査の中で、思考・判断・表現に関わる問題を出題する。
C. 観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	20%	観察・実験において、基本操作を習得しているかどうかを見きわめ、提出されたレポートの作成・提出状況で評価する。
D. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	40%	定期考査の中で、知識・理解に関わる問題を出題する。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜第1部 化学と人間生活＞ 第1章 化学と私達の生活	1	化学の学習を始めるにあたって、生活の中でどのように化学が活かされているか考える。	○	○			・身の回りで物質がどのように利用されているか考えることができる。
第2章 物質の状態	10	混合物と純物質 ●探究活動 蒸留・クロマトグラフィー	○	○		○	・混合物と純物質の違いと分離について考えることができる。
＜第2部 物質の構成＞ 第1章 物質の構成粒子	6	元素・単体・化合物 粒子の熱運動と物質の状態	○	○			・物質の三態と熱の関係、物質の変化と絶対温度について考えることができる。
		原子の構造と電子配置 イオンの生成 元素の周期表	○	○			・原子の構造と電子配置について考えることができる。
前期中間考査 (考査まで 計18コマ)	1			○		○	
第2章 化学結合	10	イオン結合	○	○			・イオンの生成の仕組みを理解しイオン式と価数について考えることができる。
		共有結合	○	○			・元素の性質と周期律について考えることができる。
		●探究活動 分子模型で学ぶ分子の極性			○		・イオン結合でできた物質について組成式を書いて考えることができる。
第1章 物質量と化学反応式	8	金属結合	○	○			・金属結合を電子の動きと関連付けて考えることができる。
		原子量・分子量・式量	○	○			・粒子の量の表し方の原理を理解し、気体や溶液の濃度の測定方法について考えることができる。
前期期末考査 (考査まで 計19コマ)	1			○		○	
＜第3部 物質の変化＞ ○第1章 物質量と化学反応式	4	原子量・分子量・式量	○	○			・粒子の量の表し方の原理を理解し、気体や溶液の濃度の測定方法について考えることができる。
第2節 化学反応式	7	化学反応式 ●探究活動 炭酸カルシウムと塩酸から発生する気体の量			○		・化学変化を化学反応式によって考えることができる。
第2章 酸と塩基	7	酸と塩基	○	○			・酸と塩基の性質を水素イオンと水酸化物イオンの価数に関連付けて考えることができる。
後期中間考査 (考査まで 計19コマ)	1			○		○	
第2章 酸と塩基	7	水の電離とpH	○	○			・水の電離とpHの意味を理解し水溶液の強弱の仕組みを考えることができる。
		酸・塩基の中和	○	○			・中和反応を滴定曲線に描くことができる。
第3章 酸化還元反応	10	●探究活動 中和滴定実験 酸化と還元	○	○	○		・酸化還元反応を電子の授受と関連付け酸化数を計算して考えることができる。
		酸化剤と還元剤	○	○			・酸化剤と還元剤の役割を酸化還元反応式にして考えることができる。
		金属の酸化還元反応	○	○			・イオン化列から金属の反応性に関連付けて考えることができる。
学年末考査 (考査まで 計18コマ)	1			○		○	
酸化還元反応	4	酸化還元反応と人間生活	○	○			・人間生活における酸化還元反応を利用した、電池の簡単な構造や電気分解について考えることができる。
	78						

【基本情報】

教科	理科	学年	1年	教科書	改訂版 生物基礎（数研出版）
科目	生物基礎	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	セミナー生物基礎（第一学習社）
科目概要	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き 第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全				
到達目標	・細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を学ぶことにより、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 ・生物には体内環境を維持する仕組みがあることを学ぶことにより、体内環境の維持と健康との関係について理解できるようになる。 ・生態系の成り立ちを学ぶことにより、その保全の重要性を理解できるようになる。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値55以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノートに写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナーは併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自家庭で解くようにすること。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身につけている。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	20%	
D. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1章 生物の特徴							
1 生物の多様性と共通性	5	生物の多様性と共通性、生物の基本的な特徴、細胞について	○		○		生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。
2 エネルギーと代謝	8	生命活動とエネルギー、代謝と酵素について エネルギーと代謝について		○	○		
			○			○	
3 光合成と呼吸	2	光合成、呼吸について	○	○			
第2章 遺伝子とそのはたらき							
1 遺伝現象とDNA	5	遺伝情報を担う物質DNA、DNAの構造について	○			○	遺伝子の本体であるDNAについて、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について理解する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解する。
2 遺伝情報の発現	9	遺伝情報とタンパク質、RNAのはたらき、タンパク質の合成について	○	○			
3 遺伝情報の分配	7	細胞分裂と遺伝情報の分配について		○		○	
第3章 生物の体内環境							
1 体内環境としての体液	7	体内環境と恒常性、体液とその循環、血液の凝固について	○		○		多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境がいかになしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫について理解する。
2 腎臓と肝臓による調節	6	腎臓と肝臓の役割について	○	○			
3 神経とホルモンによる調節	5	自律神経系とホルモンによる調節について		○		○	
4 免疫	4	自然免疫、獲得免疫、免疫と病気について	○	○			
第4章 バイオームの多様性と分布							
1 植生とその成り立ち	1	植生とその成り立ちについて		○		○	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを理解する。
2 植生の遷移	8	植生の遷移、遷移の過程、遷移のしくみについて	○	○			
3 気候とバイオーム	5	気候とバイオーム、バイオームとその分布について		○		○	
第5章 生態系とその保全							
1 生態系とその成り立ち	2	生態系の成り立ち、さまざまな生態系について	○	○			生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。
2 物質循環とエネルギーの流れ	2	炭素の循環とエネルギーの流れ、窒素の循環について	○				
3 生態系のバランスと保全	2	生態系のバランスについて 外来生物の移入、森林の伐採、生物濃縮、生態系の保全について				○	

4. 科目別シラバス

科 目 名		体 育		単 位 数 (年間予定コマ数)	3 (1 1 7)	学 年	1
教 科 書		現代高等保健体育（大修館書店）		副 教 材	アクティブスポーツ総合版（大修館書店）		
科 目 の 概 要		各種運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 また自己の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育てるとともに、健康・安全に努め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					
科 目 の 到 達 目 標		① 運動の合理的、計画的な実践ができるようにする。 ② 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につけさせる。 ③ 健康の保持増進のための実践力を育成する。 ④ 体力の向上を図らせる。 ⑤ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。					
授業の進め方		・ 3年間を見通して幅広く各種の運動を経験し、生涯スポーツにつながるように取り組ませる。 ・ 一斉授業を実施し、各種運動に対して、自己の能力や興味・関心を高めることを考えて進める。 ・ 各種目の最後に実技テストを行う。					
評 価 規 準	観点別	意欲・関心・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解		
	評価の観点	①自ら進んで計画的に運動を行っているか。 ②公正・協力・責任などの態度を身につけようとしているか。	①自己およびグループの課題解決を目指して活動の仕方を考え、工夫しようとしているか。 ②個人・集団の活動における健康と安全について、課題の解決を目指して考え、判断しているか。	①各種の運動技能が高められたか。 ②運動の合理的な行い方を身につけているか。	①運動の学び方や体力の高め方、ルールなどに関する基礎的な事項を理解しているか。		
	比重	10%	10%	70%	10%		
	評価方法	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。		
授業を受けるにあたっての留意点など		・ 上記目標を達成するためには、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ・ 個人的成長はもちろん、集団行動を通して、協調性などの社会的態度を身につけることが求められる。 ・ 時間や服装、ノート提出などの決まりをしっかりと守れないと減点する。					
家庭学習		教科書・副教材をもとに授業計画を立てる上で必要となる、知識や練習方法などの情報収集に努める。					
備考							

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	到達目標（評価の観点）
【体づくり運動】 ・新体力テストの実施 ・体ほぐしの運動 ・体力を高めるための運動 ・集団行動	9	○体力の構成要素をバランスよく全面的に高める運動 ○ストレッチング ○競技力の向上や競技で起こりやすいケガや疾病の予防をねらいとした運動 ○集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を適切に行う。	●身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、実生活に役立てるようになったか。 ●主体的に取り組むことができたか。 ●体力の違い配慮し、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしたか。
【陸上競技】 ・競走 ・投てき	15	○短距離走 ○ハードル走 ○円盤投げ ○砲丸投げ	◎記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができたか。 ●主体的に取り組みルールやマナーを大切にできたか。 ●役割を引き受け自己の責任を果たそうとしたり、合意形成に貢献しようとするなどや健康・安全を確保することができたか。
【球技Ⅰ】 ・バレーボール	15	○パス・スパイク・ブロック・サーブの基礎練習 ○ラリーゲーム ○トス→スパイク ○三段攻撃 ○ローテーション方式 ○ゲーム	◎勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようになったか。 ●スキルテスト実施【基礎技術の中から】
【球技Ⅱ】 ・バスケットボール	15	○個人技能の習得（ドリブル・パス・シュート） ○集団技能の習得（オフェンスとディフェンスの攻防）2対2、3対3、アウトナンバープレー、ハーフコート5対5、ゲーム）	◎勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようになったか。 ●スキルテスト実施【個人技能の中から】
【器械運動】 ・マット運動	15	○接転技群 前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転、とび前転、後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立 ○ほん転技群 側方倒立回転、ロンダート、前方倒立回転 ○片足側面水平立ち、Y字バランス	◎技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができか。 ●回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を滑らかに行うことができたか。 ※連続技のスキルテストの実施
【武道】（男子） ・柔道	17	○礼法　○姿勢・組み方・進退動作 ○くずし・さばき　○受身　○基本動作 ○投げ技　○投げ技の防御 ○固め技　○固め技の防御 ○かかり練習 ○約束練習 ○試合	◎技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できたか。 ◎相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようすることができたか。 ●相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開できたか。
【ダンス】（女子） ・創作ダンス	17	○班編成 ○テーマ設定 ○個の動きづくり ○群の動きづくり ○発表会	◎感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができたか。 ●表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができたか。
【スキー】 ・基礎スキー	18	○習熟度別グループ学習 【15人程度の班に指導教員1名の体制】 ○スキルテスト ○フリー滑走	◎スキーの基礎技術を習得するとともに、自己の体力向上に努めることができたか ◎集団行動を通して公共の場で立ち振る舞いを学ぶとともに、自他ともに安全な活動ができたか。 ◎自然に親しみ、仲間と楽しみながら滑ることができたか。 ●スキルテスト実施
【体育理論】	7	○スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ①スポーツの歴史的発展と変容 ②スポーツの技術、戦術、ルールの変化 ③オリンピックムーブメントとドーピング ④スポーツの経済効果とスポーツ産業	◎各項目ごとに、座学を中心とした授業を行い、小テストを実施する。その評価は「知識・思考・判断」の観点に反映させる。
【選択球技】	6	卓球・バドミントン・バレー・バスケットの選択	※選択授業のねらいを捉えて活動できているか。
	合計117		

4. 科目別シラバス

科 目 名		保健		単 位 数 (年間予定コマ数)	1 (39)	学 年	1
教 科 書		現代高等保健体育（大修館書店）		副 教 材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）		
科 目 の 概 要		生涯を通じた健康づくりの基礎として、また将来の生活のために役立つ知識・技能・実践する力を身につけるために次の3つの単元で構成している科目である。 ①「現代社会と健康」 ②「生涯を通じる健康」 ③「社会生活と健康」					
科 目 の 到 達 目 標		個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。					
授業の進め方		・教科書と学習ノートを使用して、講義形式で行う。視聴覚教室でビデオ学習する場合がある。 ・授業の流れは、教科書を読み、テーマに基づき板書していく形で進める。 ・各テーマにプリントを用い、考える力も身につける。 ・定期考査は、前期・後期の期末考査を2回実施する。					
評 価 規 準	観点別	意欲・関心・態度	思考・判断	知識・理解			
	評価の観点	・健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、個人および集団の課題解決に向けて意欲的に学習に取り組もうとしているか。	・健康の保持増進に必要な事柄について課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断しているか。	・健康の保持増進に必要な事柄について課題解決に立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。			
	比重	10%	10%	80%			
	評価方法	・工夫したノート作成ができているかを評価します。 ・課題に対するまとめの仕方を評価します。	・授業中の発問に対する対応を評価します。 ・各項目での研究課題に対する情報収集や予習について評価します。	・原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題する。			
授業を受けるにあたっての留意点 など		・上記目標を達成するためには、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ・学習内容をより深めるためには、日常的な社会事象についてニュースや新聞などで情報を集め、健康・安全に関することに関心・関心を高めるとともに、個人および集団の課題を解決する方法を見つけ出すことが求められる。 ・1単位なので、欠席には十分気をつけること。					
家庭学習		各単元で取り上げられる保健にかかわる諸問題について、常日頃から関心をもつとともにテレビ・新聞・雑誌・インターネット等で情報収集する習慣を養う。					
備 考							

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	到達目標（評価の観点）
1 単元 現代社会と健康 【交通安全・応急手当】 1 交通事故の現状と要因 2 交通社会における運転者の資質と責任 3 安全な交通社会づくり 4 応急手当の意義とその基本 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当	1 0	「交通事故を防止するには適切な行動や交通環境の整備などが必要であること、および適切な応急手当により傷害や疾病の悪化を軽減できることなどを中心に学習する。」	「交通事故を防止するには、車両の特性や安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境などが関わることを理解できるようにする。」 「適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化悪化を軽減できることを知る。また、心肺蘇生法などの応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることを、実習を含めて理解できるようにする。」
【健康の考え方】 7 私たちの健康のすがた 8 健康のとらえ方 9 健康と意志決定・行動選択 10 健康に関する環境づくり	6	「健康の考え方が変化してきていること、健康の保持増進には健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択および環境づくりが関わることを中心に学習する。」	「健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることや、健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用のもとに成り立っていることを理解できるようにする。」
前期期末考査	1		
【健康の保持増進と疾病の予防】 11 生活習慣病とその予防 12 食事と健康 13 運動と健康 14 休養・睡眠と健康 15 喫煙と健康 16 飲酒と健康 17 薬物乱用と健康 18 現代の感染症 19 感染症の予防 20 性感染症・エイズとその予防	1 5	「生活習慣病の予防と対策、喫煙・飲酒・薬物乱用の心身への影響、感染症の予防と対策を中心に学習する。」	「生活習慣病の予防には、食事・運動・休養の調和の取れた生活を実践する必要があることを理解できるようにする。 喫煙・飲酒・薬物乱用については、心身の健康や社会的影響を学び、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いが見られることを学び、その予防には個人的および社会的な対策を行うことが必要であることを理解できるようにする。」
【精神の健康】 21 欲求と適応機制 22 心身相関とストレス 23 ストレスへの対処 24 心の健康と自己実現	6	「ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が重要であることを中心に学習する。」	「人間の欲求と適応機制には、様々な種類があることや精神と身体には密接な関係があることを学ぶ。また、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることを理解できるようにする。」
後期期末考査	1		
	合計 3 9		

【基本情報】

教科	芸術 音楽	学 年	1 年	教科書	Tutti 音楽 I 改訂版（教育出版）
科 目	音楽 I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽（啓隆社）
科 目 概 要	・実技を中心に授業を進めます。 ・内容は、歌唱（独唱・合唱）、器楽演奏（アルトリコーダー） ・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。 ・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。				
到 達 目 標	・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、表現（歌唱・演奏）出来る力を身につけることが出来る。 ・鑑賞を通して、より深く音楽を感じる力と音楽文化についての知識を身につけることが出来る。				
授業の進め方	・歌唱では、数種類の発声練習を用いて、個々の技術力を高め、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を身につけるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景の結びつけを探求し幅広く音楽文化に触れる。 ・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。 ・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。				
留 意 事 項	・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。 ・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。 ・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取り入れ、音楽の素晴らしさを体感する。 ・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。				
家 庭 学 習	・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。（20分位）				
備 考	・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、4月中旬に準備しておいてください。 （中学校時代に購入した人は、それを使用しても構いません）				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取り組み、得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
B. 思考・判断・表現	表現（歌唱や器楽）分野で、基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
C. 資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
D. 知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
楽典（基礎的音楽知識）	1 6	音楽を形成している様々な要素について学習し、楽譜や音符に関して理解し、表現（歌唱・演奏）できるよう取り組む。 □音名 □音符 □音楽用語 □五線譜の名称 □音程 □小テスト		○			○	授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。 表現（歌唱・演奏）するにあたって必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。
表現（独唱）	1 2	基本的な発声（腹式呼吸・ベルカント唱法）を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら、また、音楽的背景や文化的背景を理解しながら、豊かな表現を伴って独唱することが大切です。 □校歌 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 □実技テスト	○	○				曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
表現（合唱）	1 4	発声練習・パート練習・全体練習の流れで練習し、ハーモニー感を味わいながら合唱を完成していく。（個々の努力が不可欠ですので、積極的に取り組むように） □2重唱 □3重唱 など □合唱コンクール（審査）	○	○				パートの音楽的役割を理解し、ハーモニーや音楽表現を通して、合唱の素晴らしさを体感する。 1年間の集大成として、合唱コンクールを実施し、成果の発表をする。
器楽（アルトリコーダー）	1 6	リコーダーの基本奏法を習得し、また、楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏することが大切です。 □音階 □練習曲 □楽曲 □実技テスト	○	○				様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
鑑賞 （作曲家の生涯と作品）	2 0	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。 また、各国・我が国の音楽や郷土の伝統音楽の種類と特徴を理解して鑑賞します。 □アマデウス □サウンド オブ ミュージック □海の上のピアニスト など □確認テスト					○ ○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と社会、音と生活について考察する。 □確認テストにより、内容把握や作曲家の意図するものやその時代背景との関連を探り、楽曲の完成度を味わう。

【基本情報】

教科	美術	学年	1年	教科書	美術 1（光村図書）
科目	美術 I	単位数 （年間予定コマ数）	2 （78）	副教材	
科目概要	高校美術の基礎になる教科です。 中学校で培われた能力を伸ばし、自然や自己を深く見つめることから表現や鑑賞の基礎となる能力を身につけ、美術に親しみ、愛好する心情を育てます。				
到達目標	・ものをよく見て、感性を働かせて表現することができるようになる。 ・主題にあった表現方法を考え、工夫して表現できるようになる。 ・多種多様な美術作品に触れ、その良さを感じ取り、理解を深めることができる。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、実技が中心です。 プリントや DVD・スライド等による鑑賞をおこないます。				
留意事項	・実技が中心なので、作品は出来る限り完成させて提出するようにしてください。 ・毎時間の取り組み姿勢を重視します。受け身にならず、集中して積極的に制作に取り組むようにしてください。 ・教科書、鉛筆（B、2 B 程度のもの）、消し具は毎回忘れずに用意してください。 ・絵の具、スケッチブックは美術室内に保管します。				
家庭学習	基本的に必要ありませんが、作業が遅れて時間内に完成できない場合は、家庭での制作が必要となる場合もあります。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	創造活動の喜びを味わい、多様な表現技法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	10%	授業に取り組む姿勢や積極性を評価します。
B. 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか	30%	スケッチブック等のアイデアスケッチやメモ。作品の制作過程から評価します。
C. 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能をも身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表しているか。	50%	提出された作品をもとに評価します。
D. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	10%	鑑賞ノートなどの提出物で評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
オリエンテーション	1	・1年間の学習内容	○			○	1年間の学習内容について理解することができる。
鉛筆デッサン	8	・観察による表現 ・形のとらえ方 ・明暗の階調、量感表現	○ ○ ○		○ ○ ○		・ものをよく見て、部分と全体の関係をとらえることができる。 ・明暗の階調を正しくとらえ、ものの量感を表現することができる。
静物（アクリル画）	1 2	・観察による表現 ・バランス、構図、視点の高さ ・混色法、色彩の調和 ・アクリル絵の具の特徴、タッチ・マチエールの工夫	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○		・ものをよく観察し、混色により思う色を作り出すことができる。 ・バランスを考えて、構図をとることができる。 ・アクリル絵の具の特徴を理解して使うことができる。
鑑賞	2	・近現代の西洋美術の流れ	○			○	・近現代の西洋美術の流れについて理解し、代表的な作家について親しむことができる。
文字デザイン	7	・自分の今の心の状態を表す漢字一字を選び、そのイメージを表現する ・イメージに合った文字の形、配色の工夫 ・様々な表現方法の追求	○ 	○ 	○ 		・自分の心情を表すにふさわしい形、色彩を表現できる。 ・工夫して独自のイメージを追求することができる。
自画像（アクリル画）	1 8	・観察による表現、構図の工夫 ・自分らしさを表す工夫 ・色彩の表現効果 ・下地、タッチ、マチエールの工夫	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ 		・自分をよく見つめ、自分らしさとは何かを考えて表現できる。 ・伝えたいイメージに合った色調や表現技法を工夫することができる。 ・アクリル絵の具の特徴を生かして表現することができる
絵を動かす（パラパラマンガを作る）	1 6	・アニメーションの技法 ・シナリオを考え、絵コンテの作成 ・キャラクターの動きやカメラワークの工夫	○ 	○ ○ 	○ ○ 	○	・アニメーションの技法を理解し工夫して表現することができる。 ・物語を考え動きや見せ方を工夫して表現することができる。 ・互いの作品を鑑賞し、発想や動きのおもしろさを感じ取ることができる。
鑑賞 近現代日本の美術	2	・近現代の日本美術について DVD 鑑賞	○ 			○	・近現代の日本美術の流れについて理解し、作品に親しむことができる。
スクラッチグラス	1 2	・モチーフを自由に組み合わせて構成を練る ・スクラッチグラスの技法 ・明暗構成 ・アクリル絵の具による彩色	○ 	○ 	 	○ 	・モチーフからイメージを広げ、構成を工夫して表現できる。 ・明暗の対比を工夫して、美しい明暗構成を作り出すことができる。 ・スクラッチグラスの技法を理解し、タッチや彫り方を工夫して表現することができる。